

第二十六回法華經・日蓮聖人・日蓮教団論研究セミナー 発表

実践的立場から唱題成仏を考える

教団論としての唱題成佛の一考察

高 佐 宣 長

司会 引き続きまして、全日本仏教会社会・人権部長、東京都善行院住職、日蓮宗現代宗教研究所前主任でありました高佐宣長先生に、ご発表いただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

高佐 では、お題目一唱で始めさせていただきますと存じます。ご唱和願います。

南無妙法蓮華經。

「実践的立場から唱題成仏を考える」というテーマになっておりますが、私のお話はあまり実践的なお話にならないと思います。今、皆様方に唱題をしていただきましたので、それをもって実践とさせていただきますと存じます。

ご紹介をいただきました、高佐宣長でございます。平成二十七年三月まで現宗研の主任を務めておりました。平成二十八年四月より全日本仏教会の社会・人権部長を拝命しております。本務先の出張ということにさせていただきました。本日ここにおります関係で、ごらんのような全仏の袈裟をかけさせていただいておりますけれども、全仏の立場から本日のテーマについて申し上げるべきことは特にございませんので、現宗研の元関係者として、少し気楽な立場から、考えるところを申し上げたいと存じます。

以下、レジュメに沿って申し上げますので、お手元のレジュメをご覧ください。祖文の引用はすべて電子聖典に拠っておりますので、出典の頁数等を記しておりません。ただし、部分的に私の趣味で句読点を付したり、仮名遣いを変えたりというような場合がございます。お許しをいただければと思います。

一、 佛陀観と成佛観の乖離

さて、本日は成佛論がテーマでございますが、近代佛教学、あるいは近代日蓮教学において、成佛という問題はあまり検討されて来ていないような印象を持っております。

「日本佛教学会」では、毎年テーマを設けて、そのテーマに応じて加盟大学の代表が発表するといった形式で年次大会が開催されてきておりますけれども、私が見落としていなければ、その記録である「日本佛教学会年報」に「成佛観」という号はありません。佛教学の課題について、その時点でどのような研究がなされているかということが、その年次大会のまとめという形で出ておりますので、大変有用なのですが、日本佛教学会の年次大会では、恐らく成佛観ということはテーマに取り上げられたことがないのではないかと思います。

成佛というのは佛陀になることですけれども、佛陀観が発展していった結果、成佛が論じにくくなったというような事情があるかもしれません。原始佛教におきましても、釈尊滅後、佛教徒の目標は阿羅漢になることで、佛陀になることではなくなつたというようなこともあり、大乘佛教の佛陀観の行き着いたところは、法界遍滿佛、あるいは如来藏・佛性というような内在佛であつたりいたしました。いずれも、そのような佛陀になるという形での成佛観が成立するような佛陀観ではない、と申し上げることもできるかと思ひます。

そのような次第で、少々乱暴に申し上げますれば、佛陀観と成佛観が乖離、あるいは成佛観が置き去りにされたというような事情があると言つてもいいかもしれません。後で蕘輪先生がきつとお叱りを下さるだろうと思ひます。

二、本覚思想の否定・現世利益の否定・唱題成佛の否定

二に参ります。ここから日蓮教学に話を限定しますけれども、現代日蓮教学においては、概ね本覚思想が否定され、現世利益が否定されて来ているという状況があるように思われます。布教の現場では修法などのように、明確に現世利益の信仰が現在の日蓮宗の主流であろうと思いますが、学問的にはどうなのでしょうか。

現宗研主任に在任中、ある教区の教研会議で、講師でありました宗門系大学の教授が「お題目を唱えても何も変わらない」という発言をされました。名字即身成佛でありますとか、當位即妙本有不改でありますとかいう文脈ではなかったかと記憶しております。三十二相八十種好が現れないから何も変わらないという意味での発言ではなくて、お題目を唱えても何も変わらないと多分お考えになっていて、そのように発言をされたのだらうと、そのとき理解をいたしましたので、「ちよつとそれは、まずいんじゃないですか」と、現宗研主任としても申し上げさせていただきました。

三、日蓮思想に於ける唱題成佛

では、本当にそうなのでしょう。つまり、お題目を唱えても何も変わらないのかどうかということ。日蓮思想の基本・根本は『観心本尊抄』の「佛既に過去にも滅せず未来にも生せず、所化以て同体なり。」という、四十五字法体にございます。

「本覚」と呼称するかどうかは別といたしまして、能化の本佛と所化の凡夫とが同体であること、つまり、私たちが佛体を有することが唱題成佛の大前提となると、明確に説示をされているものと理解をいたしております。

唱題成佛論のよりどころは、三原所長も引用をされておられました。申すまでもなく『観心本尊抄』の自然譲与

段です。「釈尊の因行・果徳の二法は妙法蓮華経の五字に具足す。我等この五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り与えたまふ」。

釈尊の因行果徳の功徳を譲与されるということは、成佛することであると行ってよいかと思います。すなわち、妙法五字を受持すると成佛するわけですが、問題は先ほどの宗学者の言葉ではありませんけれども、成佛をしても見かけ上、何もなかったように見えるということなのです。

本佛の因果の功徳を譲与されたらどうなるのか。唱題成佛をしたらどうなるのか。三十二相八十種好の具現でないということは明らかです。ですから、當位即妙本有不改ということになるのだと思います。「所化以て同体」で佛体を持っているわけですから、佛体に佛用が加わることによって成佛するという解釈をすることが、「所化以て同体」という言葉から自然に出て来るのではないかと思えます。

佛用についてはいろいろあるでしょうが、いわゆるご利益というものも、それに含まれてくるはずだと考えます。私の引用はすべて、三原所長と重なってしまいますが、『立正安国論』の結文「汝早く信仰の寸心を改めて、速に実乗の一善に帰せよ。しかれば即ち三界は皆佛国なり、佛国それ衰へんや。十方は悉く宝土なり、宝土何ぞ壞れんや。国に衰微なく、土に破壊無くんば、身はこれ安全にして、心はこれ禅定ならん」。実乗の一善に帰すると、三界が佛国になり、十方が宝土になる。そうすると、身は安全で心が禅定になる。ということは、要するに立正すると安国になって成佛すると仰っていると読み込んでよいだろうと思えます。

次に『如説修行抄』を見てみます。本鈔の真偽については、近時、撰折論が議論された際、今成元昭先生が偽作論を展開されたのに対し、庵谷行亭先生が反論されました。御真蹟現存、或るいは曾存であることが確認されていない御遺文について、宗学を専門とする先生が真作論を展開されたということで、祖文の真偽に関する研究が変化して来ている印象を、その際は持ちました。詳細に言及する余裕がございませんけれども、宗門的にも概ね、御真蹟がなく

とも御真作であると考えられていると言って宜しいであろうと思います。

「天下万民諸乗一佛乗と成て妙法独り繁昌せん時、万民一同に南無妙法蓮華経と唱へ奉らば、吹く風枝をならさず、雨壤を碎かず。代は義農の世となりて、今生には不祥の災難を払ひ、長生の術を得、人法共に不老不死の理、顕れん時を各各御覽ぜよ。」

一 国同帰となつた際に、衆生が成佛し、国土が成佛するということが説かれております。立正安国を別の言葉で言い換えていることだろうと思いますが、「代は義農の世となり」ということです。国土の成佛だけではなく、いわゆる社会成佛が示されています。成佛というと、個人の成佛だけが問題になって来ているような感じがございしますが、社会成佛、衆生成佛を強く説くのが日蓮宗の特色であると捉えなければいけないと思います。

次は、『曾谷殿御返事（成佛用心鈔）』を引きました。この御遺文にも真蹟がございませんので、あまり用いない方がいいのかも分かりませんが、現代的な視点に立ちまして、唱題成佛の問題を考える際には、考慮に入れておいた方がよろしいのではないかと思いますので、あえて取り上げさせていただきます。

「抑此経积の心は佛になる道は豈境智の二法にあらずや。されば境と云は万法の体を云、智と云は自体顕照の姿を云也。而るに境の淵ほとりなくふかき時は、智慧の水ながるる事つつがなし。此境智合しぬれば即身成佛する也。法華以前の経は、境智各別にして、而も権教方便なるが故に成佛せず。今法華経にして境智一如なる間、開示悟入の四佛知見をさとりて成佛する也。此内証に声聞辟支佛更に及ばざるところを、次下に一切声聞辟支佛所不能知と説かるる也。此境智の二法は何物ぞ。但南無妙法蓮華経の五字也。此五字を地涌の大土を召出して結要付属せしめ給。是を本化付属の法門とは云也。」

成佛の道は境智冥合である、境智冥合は南無妙法蓮華経の五字であるとお書きになっておられます。要は、環境との一体化を成佛として捉えるという、現代的な解釈が可能かと思えます。最近に使っているのでしょうか、「環境・

平和・いのち」というのが日蓮宗のキャッチフレーズでした。そういった現代教学を構築する上で、留意しておくべき祖文ではないかと思えます。

智は自体顕照の姿であると示されています。自らの体を明らかに照らす。体というのは、先ほどの「所化以て同体」の体だろうと思えますので、境智冥合が即身成佛であるということになると思えます。

四、 佛陀観と成佛観との統合

四に入ります。「佛陀観と成佛観との統合」と書きました。日蓮門下にとつての佛陀は法華経の久遠実成の本佛であります。成佛というのは佛に成るということですから、私たちが久遠実成にならないと、佛陀に成ったことにはならないわけです。もちろん、生物としての我々が久遠実成になるということは、なかなか難しいことです。そのうち、例のiPS細胞などによる再生医療がとんでもないことになって、夢物語でなくなるかも分かりませんが。

冗談はともかくといたしまして、久遠実成の一分を担うということ。私たちの全体成佛の継続が久遠実成である与会通をして、個人としては、佛用を現し、本佛の一分となり、本佛の誓願を生きたことが成佛であると解釈・理解して、異体同心して菩薩行を行ずるということになると思えます。妙法五字の宗旨を受け継いだ佛子として、佛位を相續して、その立場で信唱受持し、本佛の生命の表現者となって、成佛するといったところかと思えます。

五、 教団論としての唱題成佛論

最後に、五の、教団論としての唱題成佛に入ります。以上のように成佛を考えた上で、それを教団論としてどう捉えるかということになるのですが、先ほど全体成佛の継続などという耳慣れない言葉を使いましたけれども、日蓮門下が本佛の一分として、異体同心して佛願佛業を継承して、そういった生き方をする。そういう菩薩の集団となって

行くことを目指し、そのための教学の整備をする。そしてそれを言葉だけのものとせず実践する教団となっていくこと、というようなことになろうかと思えます。教団としての実践が求められてくることになりそうです。

ついでに申し上げれば、そのために、現代宗教研究所は何ができるかということになるのかということになります。が、その意味でも本日のセミナーは大変意義の深いものになるのではないかと考えているところでございます。

六、障碍と成佛

先ほど、最後にと申し上げたのですが、実はもう一枚めぐっていただきますと、余慶の功德を付けておきました。先ほど三原所長の発題の中で「さまざまな経験、直面した問題やその解釈、あるいは悩みを含めて」というご要望がありました。その部分に最も応ずる部分になるかもしれないと考えますが、あまり具体的に申し上げますと、感情が高ぶってしまっていて、話が続けられなくなるおそれがありますので、あとは三枚目に付けました資料を読んでいただければと思います。

昨年の四月、日本国は障害者差別解消法というのを施行しております。そうした時代状況をも踏まえまして、こうした観点から教学の整備、教団の対応が必要だろうと考える、と要するに、そういうことでございます。

例えば、聾啞の方に唱題成佛をどう説くのか。受持という問題になってくるのだと思えます。では、重度の知的障碍者にとっての信仰をどう考えるのか、捉えるのか。障碍者でなくても、認知症というような方々、その方々の信の問題をどう捉えていくのか。そのようなことを、きちんと教学的に整えていくということも、求められている状況にあるのではないかと思います。

例はいくらでもございます。手や腕に身体的な障碍のある方に、合掌ということをどう説くのか等々、想定されることは多岐にわたるであろうと思えます。

日蓮教学の場合は、これも三原所長が結語のところと言及されておられました、「一念三千を識らざる者には、佛大慈悲を起し、五字のうち此の珠を裹みて、末代幼稚の頸に懸けさしめ給う」という、本当にありがたいお言葉がございます。おおよその状況、万事にこの言葉で、教学的には会通して行けるであろうとも思いますが、それをどう我々が実践するのか、教団として実践するのかがということが求められるのではないかと思います。

大変雑駁でございましたけれども、以上をもちまして、私のパネル擬きとさせていただきます。どうもご清聴ありがとうございます。

折角ですから、お題目を締めで唱えさせていたただいて、実践の一分とさせていただきます。

南無妙法蓮華経。

どうも失礼いたしました。

教団論としての唱題成佛の一考察

高佐宣長

一、佛陀観と成佛観の乖離

- ・近代佛教学、近代日蓮教学に於いて余り検討されて来てゐない
- ・「日本佛教学会年報」には「成佛観」の号がない
- ・成佛とは佛陀になることであるが、佛陀観が発展してしまつた結果、成佛が論じにくくなつた？
- ・佛陀観の行き着き先としての遍満佛or内在佛（いづれも佛陀観で成佛観にならない）

二、本覚思想の否定・現世利益の否定・唱題成佛の否定

- ・佛陀と衆生の分離
- ・事相・現証の否定
- ・「お題目を唱へても何も変はらない」宗門系大学教授の弁

三、日蓮思想に於ける唱題成佛

「今 本時の娑婆世界は三災を離れ四劫を出でたる常住の浄土なり。佛すでに過去にも滅せず、未来にも生せず、所化以て同体なり。これ即ち己心の三千具足、三種の世間なり」
（『観心本尊抄』）

- ・「本覚」と呼称するかどうかは別として、本佛と所化（凡夫）が同体であるのが、唱題成佛の前提。

「釈尊の因行・果徳の二法は妙法蓮華経の五字に具足す。我等この五字を受持すれば、自然に彼の因果の功徳を譲り与えたまふ」

（『観心本尊抄』）

- ・因行果徳の功徳を譲与される = （成佛？）
- ・本佛の因果の功徳を譲与されたらどうなるのか？
- ・三十二相八十種好の具現× 當位即妙本有不改
- ・利益、佛用（佛体は「所化以て同体」で前提）○

「汝早く信仰の寸心を改めて、速に実乗の一善に帰せよ。しかればすなはち三界は皆佛国なり、佛国それ衰へんや。十方は悉く宝土なり、宝土何ぞ壊れんや。国に衰微なく、土に破壊無くんば、身はこれ安全にして、心はこれ禅定ならん」
（『立正安国論』）

- ・帰実乗一善→三界佛国十方宝土→身安全心禅定
立正 → 安国 → 成佛

「天下万民諸乗一佛乗と成て妙法独り繁昌せん時、万民一同に南無妙法蓮華經と唱へ奉らば、吹く風枝をならさず、雨壤を〔砕かず〕。代は義農の世となりて、今生には不祥の災難を払ひ、長生の術を得、人法共に不老不死の理、顕れん時を各各御覽ぜよ。現世安穩の証文〔疑ひあるべからざるものなり〕。」
（『如説修行鈔』）

- ・衆生成佛 国土成佛

「抑此經釈の心は佛になる道は豈境智の二法にあらずや。されば境と云は万法の体を云、智と云は自体顕照の姿を云也。而るに境の淵ほとりなくふかき時は、智慧の水ながるゝ事つゝがなし。此境智合しぬれば即身成佛する也。法華以前の經は、境智各別にして、而も權教方便なるが故に成佛せず。今法華經にして境智一如なる間、開示悟入の四佛知見をさとりて成佛する也。此内証に声聞辟支佛更に及ばざるところを、次に一切声聞辟支佛所不能知と説かるゝ也。此境智の二法は何物ぞ。但南無妙法蓮華經の五字也。此五字を地涌の大士を召出して結要付属せしめ給。是を本化付属の法門とは云也。」（『曾谷殿御返事（成佛用心鈔）』）

- ・境智冥合（＝南無妙法蓮華經）→即身成佛
- ・環境問題へのアプローチ
- ・智＝自体顕照 体は所化以て同体

四、佛陀觀と成佛觀との統合

- ・佛陀＝久遠実成
- ・成佛＝佛陀になること＝久遠実成になること
- ・個人としては、佛用を現し、本佛の一分となり、本佛の誓願を生きること
- ・佛位相続
- ・衆生成佛を以て久遠実成の表現と考へる

五、教団論としての唱題成佛論

- ・本佛の一分として生きること＝佛願佛業の継承＝成佛
- ・本佛の活現体の集団

「障 差別解



内閣府や東京都では職員や事業者に向けて障害者差別解消法に関するハンドブックを作成している

障害語れる教学が必要

授かった子に教えられ

高佐住長・日蓮宗行 益とは思えないであろう。希望はあったかという問題に、高佐住長は首を振る。御利益とは何なのか、成仏とは何なのか、現代の必要性を感じて、教学の現代化の必要性を感じて、祖父の高住長が創立した日蓮宗断断師会では、信心を持つて願目を唱えることで御利益が頂ける。我々倍信御利益を頂いて、は自閉症の発達障害を、おいても同様だ。現在、17歳になる長男は、おいて、また、障家の理解を得る難しさも指摘する。幼がを人らしく共に表されれば、障家を持つて子に授かることが御利益になってもらいたいという。中、大声を出してしまっ

高佐住長・日蓮宗行 益とは思えないであろう。希望はあったかという問題に、高佐住長は首を振る。御利益とは何なのか、成仏とは何なのか、現代の必要性を感じて、教学の現代化の必要性を感じて、祖父の高住長が創立した日蓮宗断断師会では、信心を持つて願目を唱えることで御利益が頂ける。我々倍信御利益を頂いて、は自閉症の発達障害を、おいても同様だ。現在、17歳になる長男は、おいて、また、障家の理解を得る難しさも指摘する。幼がを人らしく共に表されれば、障家を持つて子に授かることが御利益になってもらいたいという。中、大声を出してしまっ

深層ワ